めぐろグリーンデータブック

アオバズク

ノブドウ

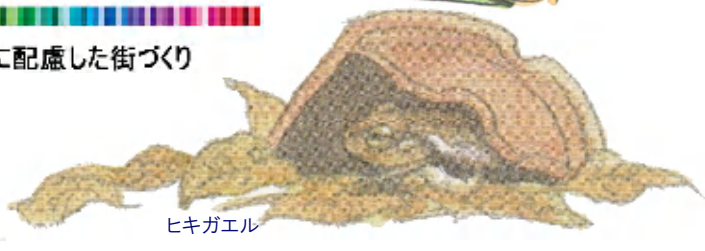
いきもの気象台（きしょうだい）

観察（かんさつ）ノート

地球のいのち、つないでいこう

目黒区 生物多様性に配慮した街づくり

カルガモ親子


ヒキガエル

みどりのまちをつくるちかい

目黒区緑化都市宣言

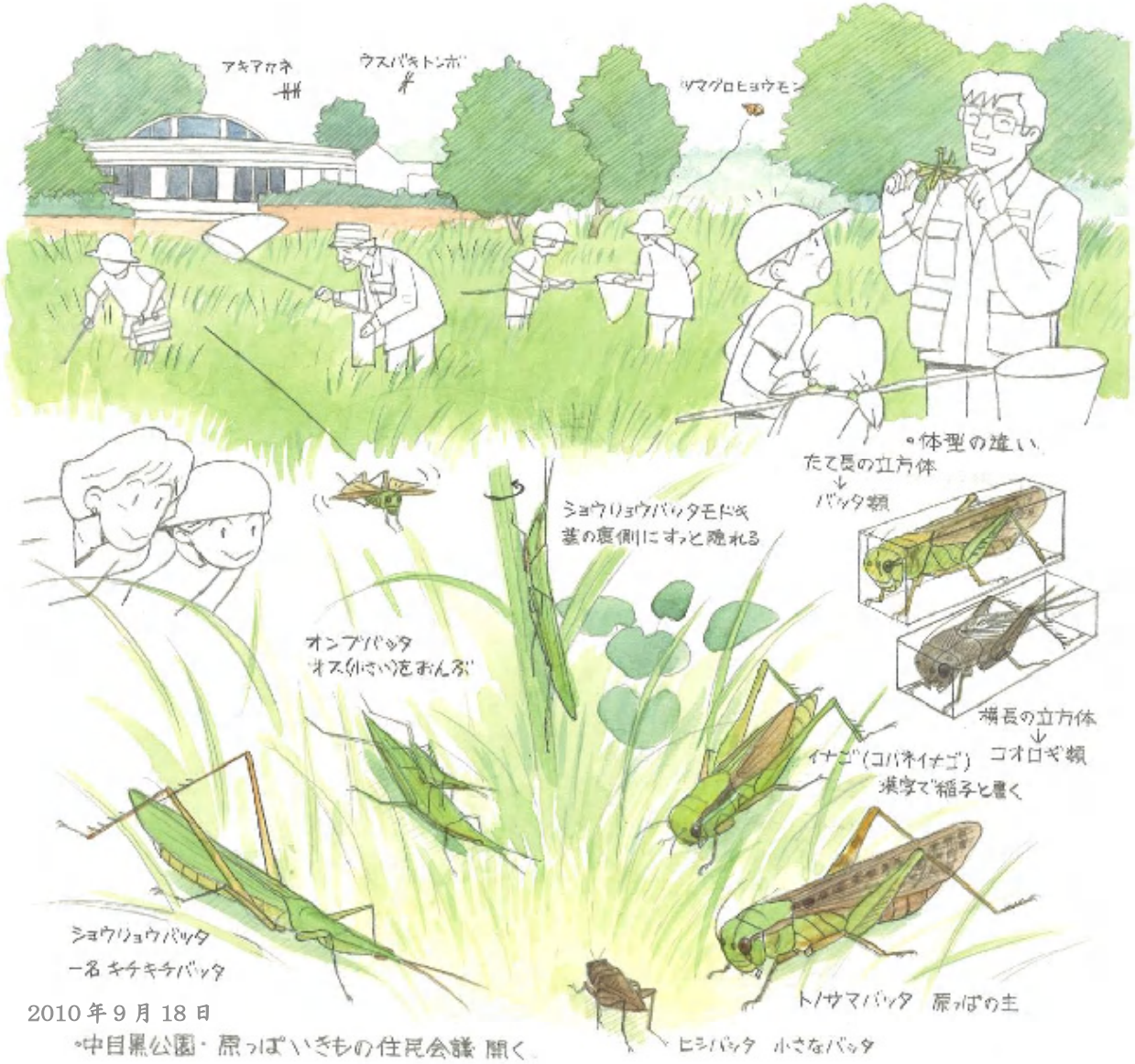
思い出してほしい
わたしたちがみどりの中に　生まれ
育ったことを
青い空　木々のこもれ日　季節のささやき
よびかけてる　誰もみな　みどりの仲間だと

忘れないでほしい
木も草も　虫も鳥たちもともに暮らす
大切な家族
だから今　かけがえのない　母なる地球を
みんなで分けあっていこう

さあ　始めよう
ひと粒の小さな種をまくことから
大地に根をはり
すくすく枝をのばし
鳥たちがうたい
人びとがやすらぐ
一本の木の種

わたしたちの手で　わたしたちの心に
こどもたちに伝える
森をつくろう

1990 年 10 月 28 日



いきもの気象台（きしょうだい）
観察（かんさつ）ノート

— もくじ —

1　わたしたちの暮らすまち ―― 2
2　いきものたちを調べる ―― 7
3　いきものたちの変化 ―― 14
4　緑地の移り変わり ―― 16
5　目黒区観察地マップ ―― 17
6　いきものたちが暮らす場所 ―― 18
7　観察カレンダー ―― 19
　　＝季節のスケッチ＝
　　〈陽春〉ようしゅん　4 月 ―― 20
　　〈初夏〉しょか　5･6 月 ―― 24
　　〈盛夏〉せいか　7･8 月 ―― 28
　　〈中秋〉ちゅうしゅう　9 月 ―― 32
　　〈晩秋〉ばんしゅう　10･11 月 ―― 36
　　〈厳冬〉げんとう　12･1･2 月 ―― 40
　　〈早春〉そうしゅん　3 月 ―― 44
8　いきものたちを見わける ―― 46
9　持ち物チェック・リスト ―― 48
10　いきものマップめぐろ ―― 49
11　絶滅の危機にあるいきもの ―― 87
12　参考資料 ―― 88
13　いきものマップ・さくいん ―― 89
14　さくいん（いきもの探し） ―― 90
15　いきもの辞典 ―― 92
○　観察日記をつけましょう　矢島 稔 ―― 93

2011-2020
United Nations Decade on Biodiversity
目黒区は、国連生物多様性の 10 年をともに歩みます

1 わたしたちの暮らすまち

［地形と地層］

・目黒区は、武蔵野台地にあります。目黒川と呑川、その支流がたくさんの谷を刻み、起伏に富む坂の多い町です(図 1)

・目黒川の東北側は「淀橋台(よどばしだい)」、呑川西南部は「荏原台(えばらだい)」、この二つの間は「目黒台(めぐろだい)」と呼ばれている台地です(図 2･3)

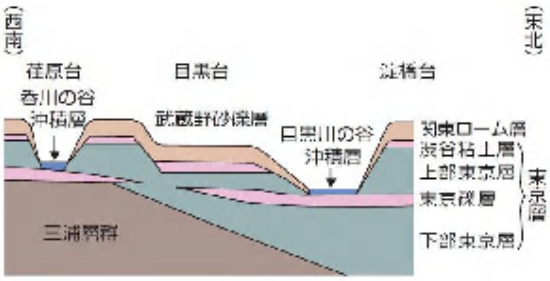


図 2　目黒区の地層(2000:目黒区基本計画より)

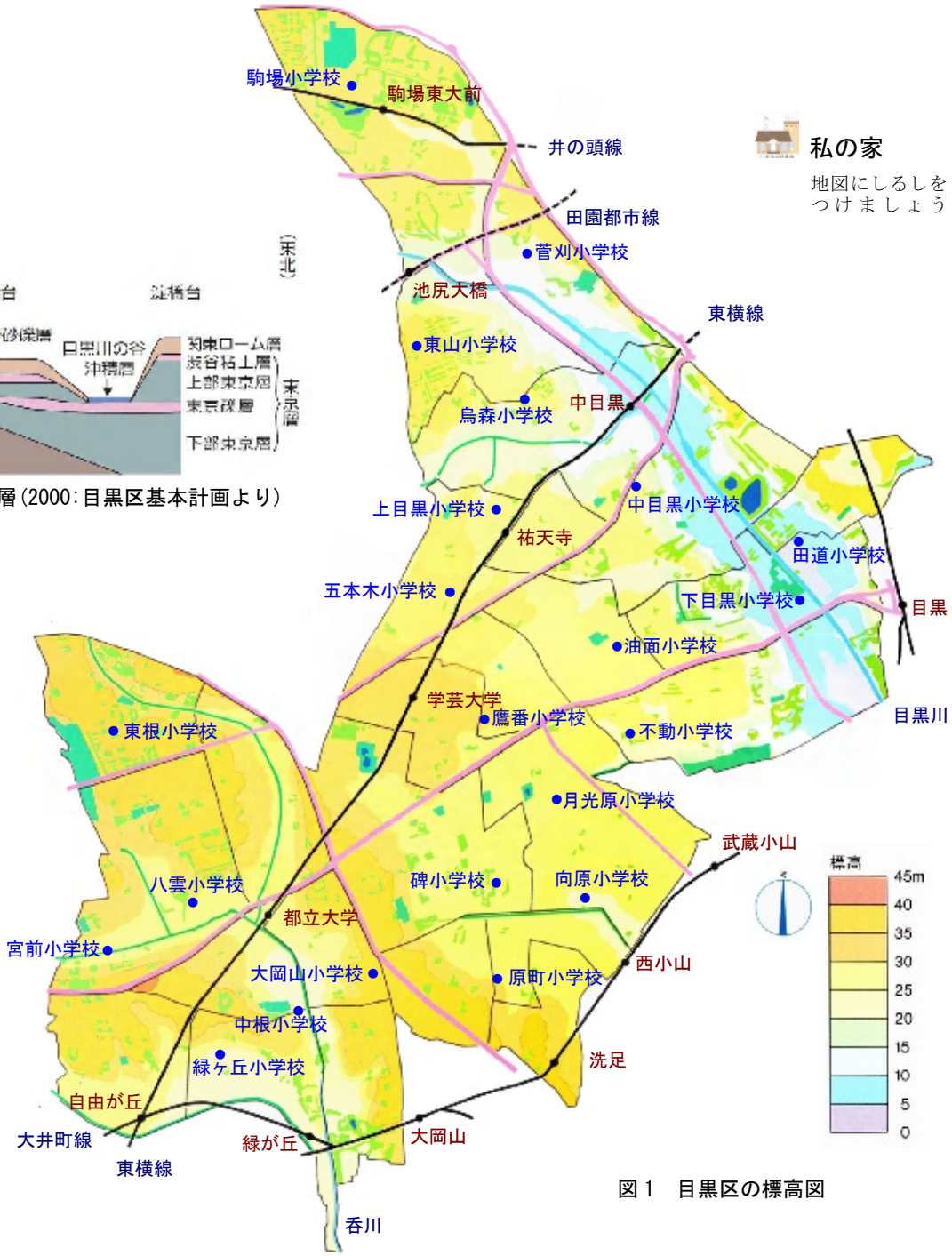


図 1　目黒区の標高図

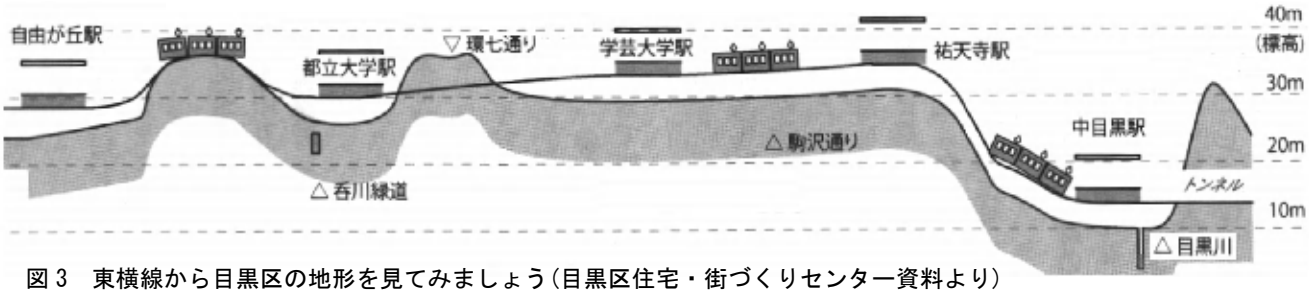


図 3　東横線から目黒区の地形を見てみましょう(目黒区住宅・街づくりセンター資料より)

［位置･人口］

・位置：都庁の西南約 10㎞。総合庁舎の緯度 35 度 38 分 経度 139 度 41 分(図 4)
・面積：14.7k ㎡、23 区中 16 番目の広さ
・人口：141,456 世帯 255,038 人(2012 年 1 月 1 日現在の住民記録)

［歴史］

・縄文時代には東山あたりまでは海で、東山遺跡(いせき)などからは、シカやクジラ・イルカ類の骨も見つかっています
・江戸時代には将軍の鷹狩りの場となるような原野で、駒場野、向原、月光原、鷹番などの地名に、当時の面影が伝えられています
・江戸の町に野菜を供給する近郊農村でもあり、大正期にかけて「目黒のたけのこ」や「目黒節成胡瓜(ふしなりきゅうり)」が有名でした
・目黒不動などの門前町は江戸の行楽地としてにぎわい、庶民に親しまれていました
・関東大震災や東横線の開通などをきっかけに急速に宅地化しました(図 5)
・上目黒、中目黒、下目黒、三田、碑文谷、衾の 6 か村が、統合や合併などを経て、『目黒区』が誕生しました(図 6)

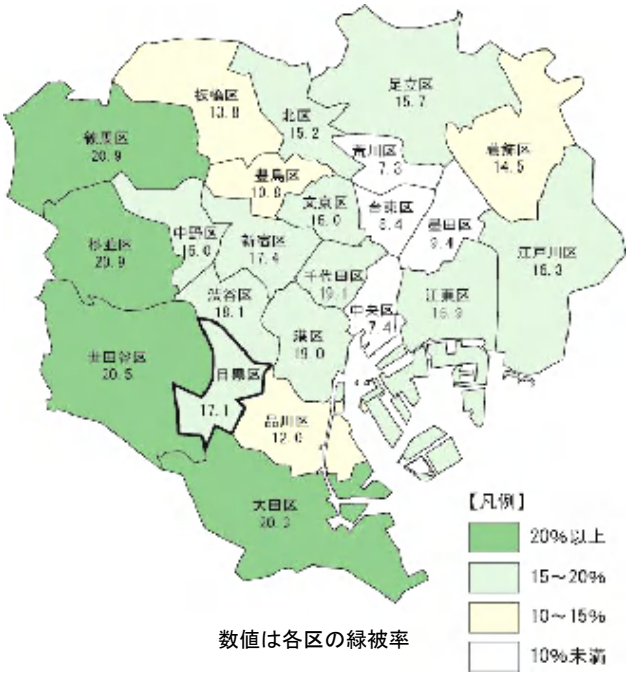


図 4　目黒区の位置(2004:緑の実態調査報告書より)

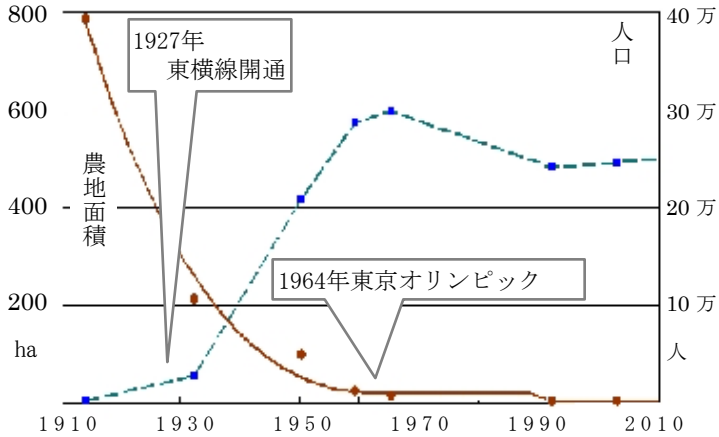


図 5　農地面積と人口の変化(区政概要を基に作成)

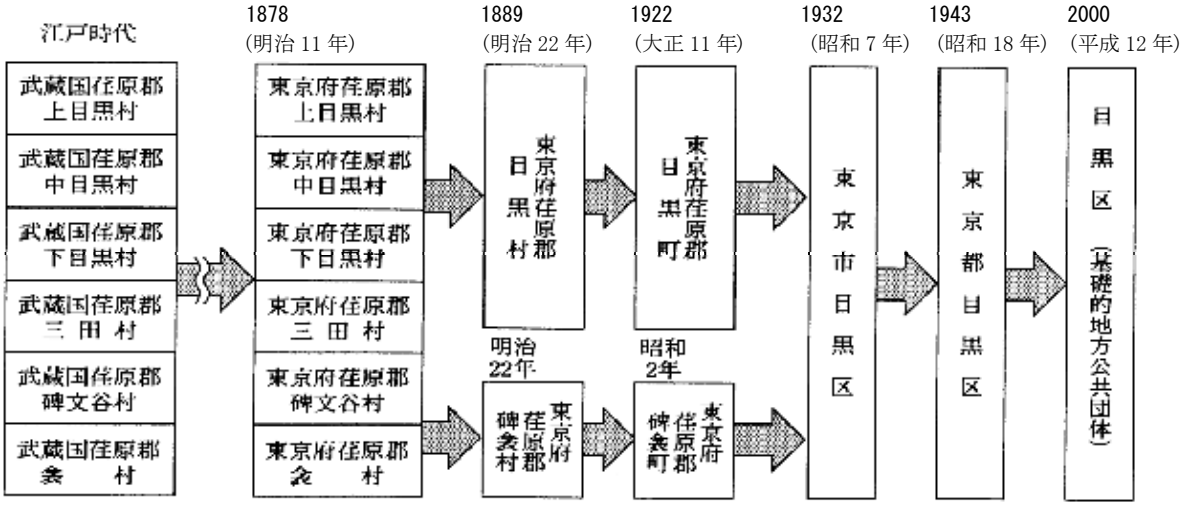


図 6　目黒区の歴史(区政概要より)

［川］

・目黒区には目黒川、立会川、呑川が流れ、それぞれに支流をもち、いずれも東京湾にそそぎます(図 7～10)
・川の長さは、目黒川 3,851m、蛇崩川 1,550m、呑川本流 2,883m、九品仏川 1,813m、立会川 1,087m です(工事課事業概要より)
・区内の川の多くは下水道の幹線としてふたがかけられ、上部は緑道などとなっています。水面が見えるのは大橋から下流の目黒川と、緑が丘 3 丁目の呑川の一部です
・区を代表する目黒川は、蛇崩川、北沢川、烏山川などの支流をもち、世田谷区、目黒区、品川区などを流れています

［湧き水・池］

・湧水は、目黒川をはさんだ両側の台地の崖(がけ)などに見られましたが、今では多くが枯れてしまいました
・池は、かつて農業用のため池だった碑文谷公園弁天池や清水池公園の清水池のほか、駒場野公園(大池)や東京大学駒場地区キャンパス内の一二郎池(いちにろういけ)、東京工業大学内のひょうたん池などがあります
・1997 年から小規模なビオトープ池が、学校や公園などにつくられ、トンボやゲンゴロウ類などが見られるようになりました

図 7　目黒区の水系(2000:目黒区基本計画より)

図 8　目黒本町付近の立会川。昭和 20 年代
(1982:あの日この顔より)

図 9 江戸期の立会川水系の碑文谷池(左)と清水池
内閣文庫所蔵文化 2 年目黒六か村絵図より
(1961:目黒区史より)

図 10 現在の碑文谷池(2004)

［環境と気候］

・緑被率は 17.1%で、23 区中上位から 9 番目です(2004:緑の実態調査 図 4･11)
・みどりの多いまちベスト 3 は、駒場 4 丁目 37.94%、駒場 3 丁目 37.63%、下目黒 5 丁目 36.25%です(図 16)
・区民一人当たりの公園面積は 1.8 ㎡で、将来目標は 2.5 ㎡です(図 12)
・2001～2010 年の東京の平均気温は、50 年前(1951～1960 年)に比べて 1.6 度上昇し、温暖化しています。また、冬(1 月)の平均気温の上昇幅が夏(8 月)より高くなっています(図 13～15)

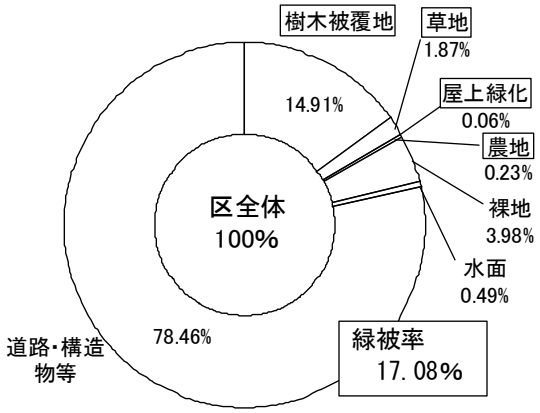


図 11 目黒区の緑被等の現況
(2004:緑の実態調査報告書より)

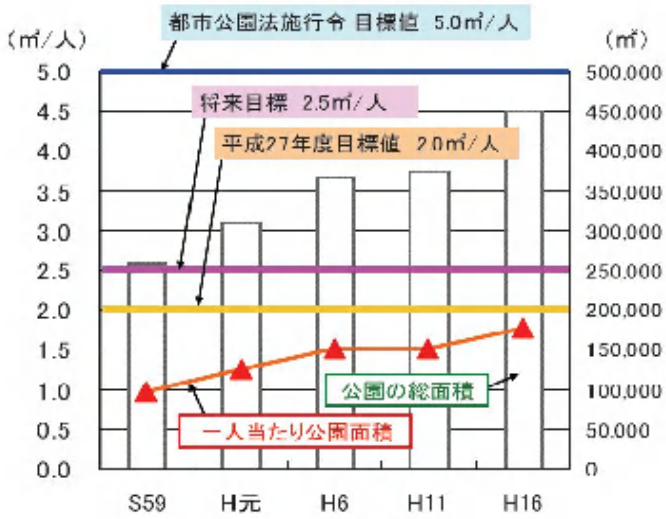


図 12 公園面積の目標(2006:みどりの基本計画概要版より)

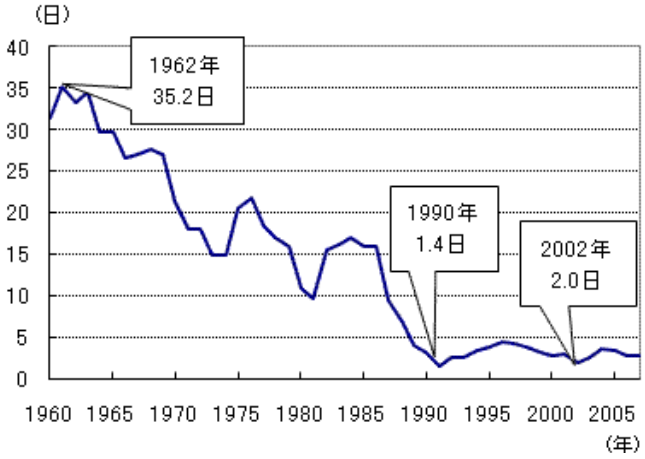


図 13 東京の冬日の日数 (気象庁資料)
(東京都環境局ホームページより)

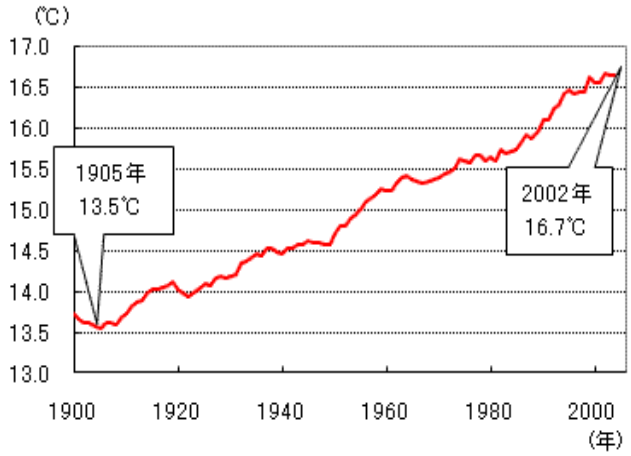
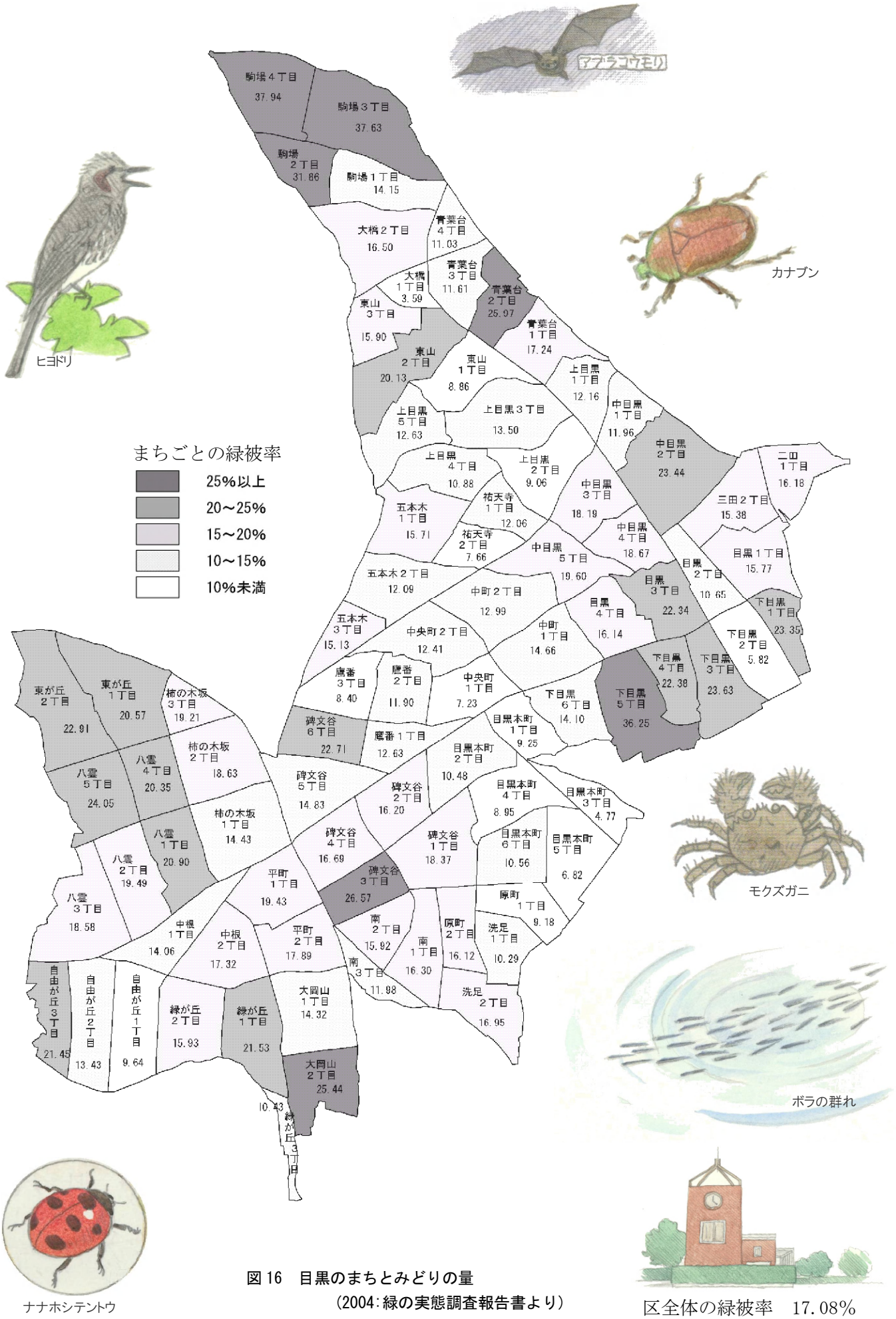


図 14 東京の平均気温のうつりかわり(気象庁資料)
(東京都環境局ホームページより)

東京の平均気温(気象庁資料)	1 月の月平均値(℃)			8 月の月平均値(℃)			年平均(℃)
	日最高	日最低	平均	日最高	日最低	平均	
1950 年代(1951～1960 年平均)	9.56	−0.2	4.25	30.48	23.39	26.34	15.01
2000 年代(2001～2010 年平均)	9.95	2.86	6.26	31.28	24.63	27.52	16.61
平均気温の上昇幅	0.39	3.06	2.01	0.8	1.24	1.18	1.60
参考 1954(昭和 29)年の林業試験場の気温	8.5	−4.6	2.0	30.3	23.5	26.9	14.4

図 15 気温の上昇(気象庁資料より 参考の数値は区政概要より)



区全体の緑被率　17.08%

図 16　目黒のまちとみどりの量
（2004：緑の実態調査報告書より）